

富嶽三六〇・御中道回廊

このフロアの目玉は、和紙でつくられた富士山上部の 800 分の 1 スケールオブジェ、**富嶽三六〇**※です。富嶽三六〇は、富士山頂からおよそ 1,500 メートル下方、標高 2,300～2,800 メートルあたりの山腹をめぐる「御中道」にちなんで**御中道回廊**と名付けられた回廊から眺められるようになっています。

時計回りにたどるものとされていた御中道を模して、御中道回廊も時計回りに歩くことを前提に設計されています。壁に設置されたパネルでは富士山の歴史と富士山から生まれた信仰の概要が紹介されており、オブジェに投影された映像は富士山の多様な表情を浮かび上がらせます。オブジェ北側の吉田口登山道の位置では、富士山の四季折々の美しい自然と富士信仰についての短い動画が一定間隔で上映されています。

※ 富嶽は富士山の別称です。

大沢崩れ

御中道は山頂に続く道よりも危険だったため、非常に勇敢な巡礼者だけがこの道に挑みました。写真が普及し始めた頃に撮影された一枚には、人々が不安定な岩棚を一行に並んで横断している血の気が引くような光景が写っています。御中道の一部は今でも歩くことができますが、現在は富士山西面の「大沢崩れ」という侵食谷が約 500 メートルにわたって道を途切れさせているため、ぐるりと一周することはできなくなりました。